

地域と共に

一人ひとりに寄り添いながら事業と活動を行ってきた生協ひろしま。地域コミュニティの活性化、人と人とのつながりを深めることが、理念の実現につながることを考えています。

♡ 暮らしの助けあい 総活動時間は7066.5時間

1988年から活動を続ける「暮らしの助けあい」。身近な地域で、組合員同士の「助け合いたい」という気持ちを大切に、病気やけが・産前産後の家事（炊事、洗濯、掃除）などを助け合う活動です。その仕組みは右下の図の通り、生協ひろしまの職員も23名が活動会員として登録しています。

「ちょっとしたお手伝いがお役に立てて嬉しい!!」

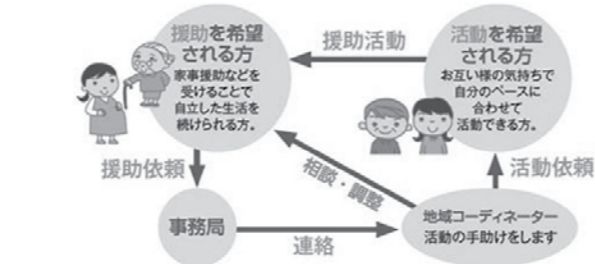


大野支所
班担当 藤岡悠太

職場の先輩に誘われて助けあいに登録しました。初めての活動依頼は家具の移動でした。依頼者は腰を痛めて重たいものが運べず困っておられたので大変喜んでくださいました。ちょっとしたお手伝い、お役に立てても嬉しかったです

2011年度より仕組みを変更しました

以前は年会費1,000円の会費制でしたが、誰もが参加しやすい活動にしようと、会費を廃止し活動支援協力金を創設。いつでも協力をしていただけると同時に、広くみんなで支えあう活動となりました。活動支援金への協力は、OCR注文用紙（通年で企画）、店舗サービスカウンター、郵便振り込みで承っています。



活動状況
 活動支援協力金：1,850,080円
 総活動時間：7066.5時間
 登録者数 援助希望者：382名
 活動登録者：460名（内職員23名含む）

農業生産法人(株)ハートランドひろしま

生き生き笑顔でつながる、人と地域と農業



生協ひろしまの子会社である農業生産法人(株)ハートランドひろしま。地域の活性化も、設立目的のひとつです。農地は地域の皆様のご理解を得てお借りしています。また、設立や運営に当たっては、地元の農業生産法人に研修を受け入れていただいたり、地元のJAさんにアドバイスをいただいたりして、地域の行事にも温かく迎えていただいています。

行政との様々な協定締結

2010年に結んだ広島県との「がん検診推進に関する協定」と広島市佐伯区と結んだ「地域連携協力に関する協定」に続き、以下の協定を締結しました。



- 【広島市】生協ひろしまとの災害時における食料・生活必需品の緊急調達及び供給に関する協定
締結日：2011年3月16日
- 【尾道市】災害時における支援協力に関する協定
締結日：2011年10月27日
- 【呉市】災害時における応急生活物資の供給に関する協定
締結日：2011年3月26日

※2012年6月には三次市とも締結しました

地域支え合い体制づくり事業

2011年度の方針でもある「誰もが安心してらせることを目指す」ためには地域住民との連携が欠かせません。その思いは行政が目指す「支援が必要になっても、地域で自立した生活ができるようにする」という目標とも一致、広島県からの受託事業として下記の事業に取り組みました。

- I. 買物支援事業
- II. 配食支援事業
- III. 地域ふれあいセンター事業
- IV. 地域ふれあいセンター普及啓発事業
- V. 場のあり方に関する調査事業

夕食宅配事業

おもいやりコープ弁当便

配食数：1,818食/日（2012年3月末現在）



夕食のお弁当を、食事づくりが困難な方にお届けするサービスは、2009年8月に呉エリアから始めました。その後、順調にエリアを拡大し、2011年は5月に三次地区、7月に三原・尾道地区をカバーする営業所を開設。2011年3月末現在で登録者は5,885名、1日当りの平均食数は1,818食となりました。



利用者の声より

一人ですべてをしなければならぬ80代の老婆です。料理、たべごとをするのがだんだん面倒になってコープ弁当をお願いしてみました。1日目にしてこれはおいしいと直感。バランスもよく残さず頂きました。次の日が待ち遠しい位です。私の場合出来れば昼食に食べたいと思っています。

移動店舗

オープンの準備を地域とともにすすめました



超高齢社会がすすむ中、地域のお店がどんどんなくなっていくことにより、「買物難民」、「フードデザート」などの問題が、表面化してきました。そこで、生協ひろしまでも、移動店舗開設の準備を開始、地域包括提携協定を結んでいた広島市佐伯区内から活動を開始することを決め、準備をすすめました。

店舗の説明会、トラックの置き場所の決定、品揃えなどは佐伯区とともに地域の町内会とも連絡を密にとりながら、協力をいただきました。「生協」・「行政」・「地域」が連携を深めたと取り組みとなりました。※移動店舗は2012年4月16日に、佐伯区の団地を中心としたエリアで営業を開始しました

フリーな居場所作り

よってこーや 寄ってこ～家を2カ所にオープン



頻発する孤独死など、誰ともつながることができない「ひとりぼっち」が問題化しています。そこで地域の「つながり」のために大切な「居場所」を福山市内に作る準備をしました。準備に当たっては福山市社会福祉協議会や地域包括センターと相談をしながらすすめ、地域との関わりを強めることができました。

居場所について考えた2日間

「わい★がや2DAYS」

3月1日・2日に開催された地域福祉について考えるイベント研修で色々な「居場所」を知ることができました。